

コスモス 2月号

第72巻 第2号

◆宮柊二カレンダー(59) 二月の歌

あしたより二月の雪は三極の淡きみどりの花
芽にくだる
歌集『藤棚の下の小室』

三極は枝が三つに分かれ、その枝ごとに一団の蕾をつける。樹皮は和紙の材料としても知られる。

歌は「淡きみどりの」と花芽を印象的に表す。また続く部分、雪が「降る」のではなく、花芽に「くだる」と表される。ここになにがしかの作者の氣息のようなものを私は感じる。昭和37年、柊二が給料生活者であることを退いて二年経った頃の歌。当時の心境が反映されているのかもしれない。

ちなみに『藤棚の下の小室』は私が初めて購入した歌集で、思い出もこもる。
(米田靖子)